

様式第 10

循環型社会形成推進地域計画改善計画書

地域名	構成市町村等名	計画期間	事業実施期間
三鷹・調布地域	三鷹市・調布市・ふじみ衛生組合	平成 26 年 4 月 1 日～ 平成 31 年 3 月 31 日	平成 29 年 4 月 1 日～ 平成 31 年 3 月 31 日

1 目標の達成状況  
(ごみ処理)

指 標	現 状 (平成24年度)	目 標 (令和元年度) A	実 績 (令和元年度) B	実績 /目標	
排出量	事業系 総排出量	10,235t	9,555t	13,087t	137.0%
	1事業所当たりの排出量	0.86t	0.80t	1.07t	133.8%
	生活系 総排出量				
	1事業所当たりの排出量				
	合 計 事業系生活系総排出量合計				
再生利用量	直接資源化量 総資源化量	22,059t	22,948t	20,841t	-137%
エネルギー回収量	エネルギー回収量 (年間の発電電力量) 余熱供給量				
最終処分量	埋立最終処分量	0t	0t	0t	

※目標未達成の指標のみを記載。

2 目標が達成できなかった要因

<p><b>【ごみ処理】</b></p> <p>1 排出量</p> <p>総排出量は、目標値 104,331 t に対し 103,068 t と目標を達成した。家庭系排出量は目標値を上回る - 1.7% となり、「一人当たりの排出量」も目標値を大きく上回る - 5.5% となった。</p> <p>一方、事業系排出量については「排出量」は現況 (平成 24 年度) の 10,235t に対して、- 6.6% の 9,555t を目標値として定めたが、令和元年度実績は 27.9% 増の 13,087t と増加し、目標を達成できなかった。これは、調布駅周辺の再開発事業及び大型商業施設の建設が進展し、複数のオフィスビルやテナントが開設された結果、大規模な事務所等が集積されたことによること、令和元年度に調布市内のスタジアムをメイン会場としたラグビーワールドカップ開催等、計画策定時には想定できなかった要因により、排出量が増加したこと、景気の緩やかな回復基調に伴う企業活動の活性化が主な要因と考える。</p>
---

## 2 再生利用量

「総資源化量」は、目標を達成することができたが、「直接資源化量」は目標を達成することはできず、さらに、計画作成当時の実績よりも下回る結果となった。これは、資源物の割合が大きい紙類がペーパーレス化の進展により年々減少傾向にあることが主要因と考えられる。

## 3 目標達成に向けた方策

目標達成年度 令和7年度（2025）まで

### 1 事業系排出量の抑制

- ・許可収集業者の収集実績の確認を徹底し、大量排出事業者を特定したうえで、食品リサイクル法に基づき事業者自ら実施する食品廃棄物の減量・資源化を推進することで、事業系排出量となる生ごみを削減していく。
- ・大規模事業者に対して、条例に基づく廃棄物再利用計画書を活用し、達成状況を細かに分析・調査することで更なる自主的な資源化を促していく。
- ・中小事業所に対しては、商工会と連携した情報提供を図るとともに、許可収集業者からの情報や、ふじみ衛生組合（クリーンプラザふじみ）での搬入物検査結果などに基づき、分別が徹底されていない中小事業者に対する指導の徹底を図る。また、優良事業者に対する表彰制度やノウハウ普及を促すことで、事業者の減量に向けた意識醸成を図る。
- ・事業所が集中する調布駅周辺などエリアを絞った事業系ごみ減量指導を検討する。
- ・花火大会などの市のイベント、オリンピック・パラリンピックをはじめとする大型のイベント開催時に、関係部署・団体及び主催者と連携・協力し、飲食店に対してリユース食器の利用促進、来訪者に向けたごみの持返りの呼びかけ、食品ロスの削減に向けた協力等をお願いしていく。
- ・市内小中学校の給食残渣による食品ロスの削減を図るため、教育委員会と連携・協力しつつ、適切な配食料や食べ残しの少ないメニューの分析・考案、食品ロスに関する啓発や食材への意識改革を生徒に促すための食育、残渣の堆肥化などに向けた取組への検討及び実施を図る。
- ・市内の大規模事業者と連携し、飲食店から排出される食品ロスの削減に取り組む。

### 2 再生利用量

直接資源化量について、資源物の割合が大きい紙類がペーパーレス化の進展や電子書籍の普及により今後も減少傾向にあるため、今後も現状維持に努めたい。

(都道府県知事の所見)

三鷹・調布地域は、従来から全国でも高いレベルの循環型社会を形成しており、人口が大幅に増加するなか、着実に施策を実施し、総排出量、総資源化量は目標を計画どおり達成した。

しかし、事業系ごみについては、再開発による大規模オフィスの増加・集積、ラグビーワールドカップのメイン会場となったことから、大幅に排出量が増加する結果となったが、一時的な要因もあることから、今後の経過を注視したい。

これからの課題として、事業系廃棄物への指導強化とイベント開催時のごみ減量化策について、対応を期待する。

また、目標達成に向けた方策として具体的な施策を掲げている食品ロス削減についても、次期計画内での成果に期待する。